



「2022年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

校長 山脇 裕

令和4年4月19日(火)に、中学3年生を対象に実施しました「全国学力・学習状況調査」につきましては、個人の結果はすでにお返ししていますが、本校全体の分析ができましたので詳細を以下の通りお知らせいたします。なお、本調査における、教科に関する調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることから、明石市では、学校別の平均正答率は公表せず、文書標記とすることにしておりますことをご承知ください。

1 実施生徒数

調査対象学年	本校	明石市	兵庫県(公立)	全国(公立)
中学校第3学年	179	2,272	39,497	892,585

2 調査内容

(1)教科に関する調査

知識・技能、知識・技能を活用する力、

課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

○国語(50分)14問 ○数学(50分)14問 ○理科(50分)21問

(2)生活習慣や学習習慣等に関する質問紙調査 (30分程度・69項目)

3 調査結果

教科	平均正答率(%)			
	本校	明石市	兵庫県	全国
国語(R3)	市平均より5ポイント程度高い	65	64	64.6
国語(R4)	市平均より少し高い	71	69	69.0
数学(R3)	市平均より5ポイント程度高い	58	58	57.2
数学(R4)	市平均と同じ程度	55	53	51.4
理科(H30)	市平均より3ポイント程度高い	68	67	66.1
理科(R4)	市平均より少し高い	50	49	49.3

4 教科に関する調査分析

(1)国語科

<強み>○国語の基礎学力が調順調についていると思われます。長い文章を短時間で読み取る力は、毎日の朝読書からも培われています。
○記述問題で無回答率が大幅に低くなっています。日ごろの授業プリントで、記述に慣れさせていることがこの結果につながっていると考えます。

<課題>●話の展開に沿って主人公の行動を並べ替える問題で誤答が多くありました。授業で、主人公の言動をまとめながら、話の展開をより丁寧に読み取ります。
●行書の特徴を答える問題で誤答が多くありました。2年生では行書の特徴についてのテスト時は答えられており、行書の知識を忘れてしまったと考えられます。3年生の書道の時間に確認します。

☞○ほとんどの生徒が国語の授業が大切だと思いつつも、国語の授業が好きと答えた生徒は半数を切っていました。読書が好きだと答える生徒が多い一方で、家にある本は少なく、教科書に出てくる「読書への招待」などを通して、様々なジャンルの本を紹介し、より見方を広げ、国語の楽しさを感じられる授業を行いたいと思います。
○授業では、単元ごとに、学んだことを深める記述式の解答を課しており、この成果が表れているように感じます。また、読み取ったことを、話し合いや教え合う時間をとっていることが「話すこと・聞くこと」「読むこと」に表れているように感じます。

(2)数学科

<強み>○「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点において全国・兵庫県平均を上回っています。

<課題>●数学の授業で学んだ事を自分たちの普段の生活や将来に役立つと考えている生徒の割合が全国・兵庫県平均を下回りました。
●公式やきまりを使うことだけでなく、成り立ちの理由まで理解しようとしている生徒の割合も全国・兵庫県平均を下回りました。

☞○計算や公式などの知識・技能を高めつつ、答えに行きつくまでの過程や、学んだ事が実際にどのように使われているかを具体的に考える機会を振り返りで設けます。
○「素因数分解」は35.8%と大きく全国・兵庫県平均を下回りました。1年生時の内容で、それ以降の授業で復習する機会が乏しかったことが理由ではないかと考えており、今後、復習する機会を増やしていきます。

(3)理科

<強み>○「理科の授業の内容はよくわかりますか」について、「あてはまる」が全国・兵庫県平均を大きく上回りました。

<課題>●「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思えますか」について、「あてはまる」が全国・兵庫県平均を大きく下回りました。

●「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」について、「あてはまる」が全国・兵庫県平均を大きく下回りました。

☞◎「知識・技能」は全国・兵庫県平均を下回り、「思考・判断・表現」は全国・兵庫県平均を上回りました。

◎「化学式を覚えているか」「化学反応式の書き方を理解しているか」などの暗記内容が苦手であることや、ばねの長さや力の大きさについて、実験データをグラフに表すことができる計算能力が低いと考えられます。また、「粒子」を柱とする領域の理解の低さが他に比べて顕著でした。

◎無回答率が高い問題については、すべて記述式の問題であり、理解しているかよりも、書きづらいと感じる問題が無回答につながったと考えます。

◎授業をよく理解しているので、ワーク等で家庭学習での知識の定着を図り、授業においては、実験の計画を立て、結果に対しての考察を充実したものにするような展開を重視します。

5 生徒質問紙に関する調査分析

(1)生活面

<強み>○「朝食を毎日食べている」が約79%と、基本的な生活習慣が身につけている生徒が多くいます。

<課題>●「朝食を全く食べていない」生徒が5%と非常に多く、起床時刻など基本的な生活習慣の乱れがないか、家庭と連携を取りながら改善していきます。

●携帯電話・スマートフォン等の使い方について、家の方との約束のない家庭が25%あり、使用の際の約束を、各家庭で設定していただきたいと思えます。

●1日に2時間以上ゲームをしている生徒の割合は約40%と多く、ゲーム以外で、1日に2時間以上、SNSや動画視聴をしている生徒の割合も40%を超えています。これらの生徒がネット・ゲーム依存に陥り、昼夜逆転や引きこもりなど生活習慣の乱れにつながらないよう、啓発していきます。

☞◎約95%の生徒が携帯電話、スマートフォン、コンピュータを使用できる環境にいるため、情報モラル教育が今後、いっそう大切になると思われます。使用の際の約束を各家庭で設定していただくなど、家庭・地域・関係機関と連携して、生徒の健全な育成に関わっていきます。

(2)学級・学年指導

<強み>○全体的には、家族、友人、教員と良好な人間関係を構築し、将来の目標に向かって前向きに取り組んでいる生徒が多いといえます。

○「学校に行くのは楽しいと思う」では、「当てはまる」は約36%、「どちらかといえば当てはまる」は約46%で、合わせると約82%になります。

<課題>●「自分によいところがある」と自己を肯定的に捉える生徒が約75%ですが、そのうち「当てはまる」と回答した割合は約28%で、昨年より低くなっています。成功体験を数多く経験させることが大切であると思えます。

●「学校に行くのは楽しいと思う」では、「当てはまらない」は約7%、「どちらかといえば当てはまらない」は約10%で、「楽しい」と答えられなかった生徒を大切にしていけるよう取組を行い、困っていることを表現できずに生活している生徒もいると考えていきます。

●「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦しますか」では、「どちらかといえば当てはまらない」が約40%で大変多く、「将来の夢や目標を持っていますか」では、「当てはまる」は約35%と、全国・兵庫県平均を下回っている。

☞◎今後も生徒を認めていく中で、生徒との信頼関係を築いていくとともに、信頼関係が築けていない生徒、自分の悩みを相談できない生徒に対しては、きめ細やかに対応します。また、将来の夢や目標を持ち、それに挑戦する気持ちを持てるよう、「総合的な学習の時間」で、3年間を見通したキャリア教育の充実を図っていきます。

(3)学習面

<強み>○質問しやすい雰囲気や学校として作ることができています。

○生徒自身が問題解決に向けて、他者の力を借りて課題に向き合うことができています。

○「読書は好きですか」では、「当てはまる」が42%と多く、「当てはまらない」は7%と少ないです。日頃から取り組んでいる朝の読書が定着していることが要因と考えられます。

<課題>●休日に、たいへん良く学習に取り組んでいるとは言えません。テスト期間だけでなく、普段から、家庭学習をする習慣づけができるよう指導していきます。

☞◎多くの生徒が、学習・読書習慣が身につけていますが、今後、一斉指導や一律の課題ではなく、タブレット、インターネット教材等を活用して、個別の課題に応じた指導ができるよう、さらなる研究をしていきます。

◎1・2年生のときに受けた授業で、次のような生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

- ・自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた生徒。
- ・自分で考え、自分から取り組んでいた生徒。
- ・学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている生徒。
- ・話し合いで自分の考えを深めたり、広げたりすることができている生徒。
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている生徒。

◎振り返り活動を充実させ、振り返り活動を行ったことで学力が見についていることを実感できる取組を行います。

◎塾に通っている割合が他地区よりも少ない可能性が考えられ、自分自身で学習に取り組んでいるとも思われる。また、学校の宿題には取り組んでいるが、それ以外の学習は行っていないようにもとることができます。

◎教科の平均正答率が高い傾向にある一方、生徒質問紙と学力の相関関係がないものも見られます。落ち着いて授業を行うことができていることから、授業内容が身につけていることが原因と考えられますが、活動内容を充実させることで、より学力の向上につながると考えます。

(4)情報教育

<強み>◎多くの教科でタブレット端末の使用が本格化し、調べ学習をする際には、必ずタブレットを使用するようになりました。

◎対話的な学びを深めていく場面での使用が増加し、自分の意見を伝えることが比較的多い道徳などの授業でも使用されるようになりました。

◎筆記型でまとめるよりも、タブレットを使用したほうが自分の考えを手軽に伝えることができるともあり、端末の利用が増加しています。

◎タブレットドリルや昨年度のみんなの学習クラブの使用も少しずつ定着しています。

ご家庭における基本的な生活習慣・学習習慣の定着が、根底にあると感じております。今後も、お子様との豊かな関わりや本校教育活動へのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

この結果について何か質問等ございましたら、ご遠慮なく学校までご連絡ください。